

平成25年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100164	事業の開始年月日	平成24年2月1日
		指定年月日	平成24年2月1日
法人名	医療法人社団 誠淳会		
事業所名	グループホーム 川崎幸の家		
所在地	( 212-0058 ) 神奈川県川崎市幸区鹿島田3丁目12番46号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成26年1月18日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpjDetails.aspx?JGNO=ST1495100164&SVCD=320&THNO=14130>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の尊厳を大切に、安全・快適に過ごして頂ける施設を目指します。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成26年2月6日	評価機関 評価決定日	平成26年4月3日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR南武線平間駅から徒歩約5分の大通りから少し入った静かな住宅街にあります。開設時に建てられた真新しい鉄筋3階建てで、外装が柔らかいピンク色の建物です。近くには多摩川を水源とした県下で最も古い人口用水路の二ヶ領用水が流れ、春は兩岸の桜並木、秋はカモなどの渡り鳥の飛来があるなど、利用者が季節を感じられる散策コースとなっています。

<優れている点>

職員皆で作上げた理念「ゆったりと楽しく・自由にありのままに・仲間と一緒に暮らす」を掲げ、職員のチームワークの支援で明るくゆったりとした日々を過ごせるように支援をしています。管理者は職員に対して、安全第一のモットーを周知し、たとえ業務を控えても安全で安心な暮らしを支援しています。

法人にはパート職員から正職員へ、職員から管理者へと各職域の研修制度があります。研修制度により介護職員の資質の向上や人材育成と、利用者へのサービスの向上に取り組んでいます。

<工夫点>

利用者の能力を出来るだけ引き出すように、日常の活動を生活リハビリとしています。職員は見守りを重視した支援を行い、安全を確保しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 川崎幸の家
ユニット名	1号館

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	理念に基づき行っている。	理念は事務所の入り口や事務所の中に掲げています。毎週月曜日の朝礼の時に全員で唱和し、共有を図っています。「ゆったりと楽しく、自由にありのままに、仲間と一緒に暮らす」理念の実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町会の行事などではできる限り参加している。	町内会に加入し回覧版を受けたり、回しています。町内の祭りの屋台が玄関まで来たり、地域の神社の盆踊りにはホームの半数の利用者が参加して交流をしています。近くの二ヶ領用水の散歩コースでは日常的に地域の人達とのふれあいがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	推進会議などを通じて地域に施設の情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者の家族や地域の意見を聞き、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回実施し、開催メンバーは町内正副会長、民生委員、行政、地域包括支援センター、家族、家族代表です。内容はホームの活動状況や外部評価の報告、地域の情報や行政のお知らせをしています。家族会やビール工場見学会の開催提案などもしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括、市の担当者に推進会議を出席していただき、その都度話し合っている。	行政への事故報告や運営推進会議の報告はいつも直接出向き報告と情報交換をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしてはいけない事は全員が理解している。	毎週月曜日の朝礼で「身体拘束廃止」について確認をしています。職員は身体拘束の弊害について正しく理解し、承知しています。不適切な言葉に気づいた時は、その都度職員相互で注意を促すようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	暴力、無視、言葉、金銭面など十分気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	常に、情報交換に努め、話し合いの場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、不明な点などしっかりと答えて納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族の意見を聞き、介護サービスに反映している。	入居時や普段の面会時に要望や意見を聞いています。「床屋に行きたい」「あめを買ってやって欲しい」「コルセットが欲しい」など一人ひとりの利用者や家族の要望に合わせて支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別に職員の意見や、提案などを聞いている。朝礼や職員会議で意見を聞く。	管理者は職員会議の際に意見を聞いたり、職員一人ひとりに声掛けて要望や提案を聞いています。また、職員が常に自由に意見や要望などを言える環境を作っています。行事計画の企画などは職員の提案を反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が代表に報告し、コミュニケーションを取りながら働きやすい職場を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修（A課程、B課程、AA課程、E課程等）を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市などが主催する講習会など積極的に参加し、職員のスキルアップを図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	職員が本人との対話や、声掛けなどを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居相談時に家族から不安、要望等を聞き、それにしたがって介護計画書をたて、サービスを反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談時に本人に合った支援や当ホームでの生活が可能かどうかを話し合う事をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人が生きがいを持って生活出来るように話し合い支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族と御本人、職員より良い関係を築くため日頃よりコミュニケーションを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会、外出、外泊等人との関係がいつでもいい状態でとれるように柔軟な対応をしている。	以前からの知人や友人が訪ねて来ており、jいます。ドラックストアへの買い物や寿司屋への外食などを続けられるよう支援しています。近くのニヶ領用水への散策や花見はすっかり馴染みの場所になっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活の中、良い関係性が保たれるようにレクリエーションなど行い支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も連絡を取ることで本人の状況、経過を知りこれまでの関わりを大切にしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の今までのような生活環境の意向に従う様心掛けている。	日頃の会話の中で思いや意向を把握しています。現在意思表示のできる利用者がほとんどです。意思表示の困難な利用者には声掛けの表情や態度、仕草などで汲み取るようにしています。「魚は嫌い」は形を変える、「肉が嫌い」は、形体を変えると食べるなど一人ひとりに合わせて支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントを熟知し、今までの暮らし方を礎に一人一人のサービス向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体操、レクリエーション、散歩などの際は心身状態を把握するのに最適なので積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	運営推進会議や面会時に家族との話し合い、要望などを聞いている。	初回アセスメントで暫定プランを立て、1ヶ月後にモニタリングと計画の見直しをしています。サービス担当者会議には、管理者、介護職員、計画担当の他、利用者、家族も参加して意見を出しています。見直しは通常半年に1回行っています。	アセスメントからプラン作成、実施と評価のサイクルで改善の課程やその評価は具体的に記録し、今後の自立支援の糧とされるよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員は介護記録、業務日報を毎日記入し、日々の変化に気を付けている。職員間で申し送りをしっかりと行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様が日常生活に必要な物等を御家族と相談しながらサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者様が安心して過ごせるよう地域の方々と意見交換をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の往診を行っている。本人や家族の要望に従い受診して頂いている。	入所時のかかりつけ医を決める話し合いでは、協力医療機関の同席で、ホームの医療連携体制や適切な受診・診断を受けられるかかりつけ医について説明し、家族の納得を得て決めています。現在は入居者全員が協力医療機関の医師をかかりつけ医としています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の状態変化に気づいた事があれば訪問看護師等に伝えて相談し医療面を連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の病状等を常に把握し、医療関係の医師等に伝えられるようにし、医師からの指示内容を職員に周知している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者の心身の状態を早期より家族に伝え、今後どのようにしていくか考え話し合っている。	「医療連携体制加算についての同意書」の中で、重度化や看取りに関する対応の指針を説明しています。終末期に向けた職員の教育などの体制整備や今後の事業所の方針について話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急車が到着する前の応急処置や準備すべきことについて想定をしながら勉強会や話し合いを繰り返し行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力により、避難訓練、消火器の使用方法などの訓練を定期的に行っている。	消防署が事業所から数分の所にあり、火災などの緊急時に協力を求めやすい環境にあります。事業所のある鹿島田は高齢者の多い地域で、災害時の避難場所として事業所の活用を地域に申し出ています。災害用備品は、食料や5年保存水などを備蓄しています。	各階からの避難方法を検討した訓練計画とそれに基づいた訓練と反省会の記録を作成し、次回の訓練への反映を期待します。地域にも訓練参加を求めています。実現への更なるアプローチも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の自尊心やプライバシーを損なわない様に職員間で気を付け、話し合いを常に設けている。	朝礼では、入居者に対する人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉使いや対応について話し合っています。また、個人情報の使用に関しては、入所時に家族に「個人情報使用同意書」で同意を求め、更に情報を開示する都度個別に同意を求めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様に合わせて声をかけ、複数の選択肢を提案し、本人が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の拘って気持ちを把握し、起床時、入浴後など重点に注意をはらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好調査を行っている。また調理、盛り付け、片付け等も利用者様と共に行い、楽しく食事できる様フィンキ作りも大切にしている。	メニューと食材は業者に依頼しています。好みや希望を反映するため、別途地域の店からも食材を購入し、希望の料理を作ることも行っています。検食記録方法の改善で調理の質の向上や、衛生に注意して食の安全にも取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量も個々に合わせて確認するようにし、声掛けなど積極的にしたり好みものを出せるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自分で出来る方は声かけ、見守りをして個々の状態に合わせたケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者様にも時間を見計らって誘導する事により、トイレで排泄出来るよう支援している。	オムツの使用は排泄の自立の低下に繋がるとして、極力頼る事はせず、トイレでの排泄にむけた誘導支援に徹しています。排泄チェック表の他に外気温度を考慮するなど適正化に努め、自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々の体操や水分補給の徹底を行い、便秘対策に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を拒む人に対しては声掛けの工夫、対応など個々に合わせた支援を行っている。	入浴は、午後1時から4時の時間帯で支援しています。週3回を目安にしていますが、希望があれば目安の回数に限らず応じています。また入浴支援は「安全」と「ゆったり」をモットーに、入浴を楽しめるよう支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	なるべく日々の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。個々の体力や体調に合わせたケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様の薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管し、全職員に分かる様に徹底している。処方の変更があった場合は申し送りノートに提示し、状態変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえよう、お願い出来そうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人一人の希望を把握し、散歩や外出を行っている。歩行困難なケースでも車や車椅子等を利用し、外出を積極的に行っている。	日常的に、ホームの裏手を流れる桜で有名な二ヶ領用水路の川べりの散歩や鹿島田神社へ出掛けています。散歩が無理な時にはホームの前庭で外気浴を行っています。また、食の楽しみを兼ねて入居者の喜ぶ回転寿司へも出掛けています。	外出支援の活動状況が入居者の家族に余り知られていないようです。散歩や外出、地域の祭りなどの参加写真を掲示して、家族に外出支援の取り組みを理解してもらうなど改善検討が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の所持については、御家族ごと様々な意向をもっているが、本人の希望や安心の要因になっている利用者様には少額所持して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りや職員からの声掛けを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾りつけなどは季節に合ったものを利用者様と一緒に作っている。	廊下や居間などには、季節に合わせて入居者と職員と一緒に作った折り紙の貼り絵を飾っています。利用者が混乱を招かないよう華美な飾りつけは行わず全体的にスッキリと整えています。職員は清潔感のある住環境を作り、居心地よく過ごせる工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやダイニングテーブルなどの配置に配慮したり、落ちつくつろげるスペース作りに取り組んでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	箆箆や写真など昔から使用している物を持ち込み、それぞれの利用者様の居心地の良さを配慮している。	自宅での生活を思い起こすような机や椅子、仏壇、タンス、鏡台など、馴染みの物を持ち込んでいます。中には家族が個々の引き出しに収納品名を記入したタンスや家族から届いた花や手紙を飾るなど、一人ひとりに合わせて居心地よく過ごせる配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様の身体状況に合わせ、手すりを付けたりしている。一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印を付けたり、物の配置に配慮している。		

事業所名	グループホーム 川崎幸の家
ユニット名	2号館

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	地域の方と積極的に情報交換し、地域の特色を理解する様に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	天気の良い日は、近隣を散策していると挨拶を交わしたり、草花の名前を教えて頂くなどの交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方との交流により認知症について御理解頂ける様に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回、情報交換や意見等話し合い地域一体を目指し、サービス向上に活かせる様に努力している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	施設の判断だけではなく、法制度の確認、個別ケアについて情報交換し、介護について情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は利用者の見守りやその時に応じた声掛けなどが、身体拘束に該当しないか考え、行動する様努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法に関する理解浸透や、遵守に向け勉強会やミーティング等を常に実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護が必要と思われる利用者がある場合は、関係機関と連動し利用者の権利擁護を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	本人を交えて家族等に丁寧に説明、重度化や看取りについての対応方針、医療との連携体制についても詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族様が訪問した際は、何でも言って貰える雰囲気作りに徹し、出された意見要望等を話し合い反映させている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週1回の朝礼、月1回の職員会議を行い、職員の意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図れる様に心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は常に現場に出て、職員同士の人間関係を把握し、労働環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所以外で開催されている研修会等を収集し、なるべく多くの職員が受講できよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣の事業所同士情報、意見交換し交流を持つことによりサービスの向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の思いや不安を受け止め、職員が受け入れられる様に信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	不安な事や生活リズムの変化があった場合は、御家族様と一緒に寄り添い解決したい思いを伝える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談事があった場合、御家族や御本人の思いを伺った上、その方ができることを優先し、徐々に出来ることを増やしているよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	御本人様の思いや不安、喜びを共に分かち合う様心掛け、常に関わりを持ち信頼関係を築く。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御本人様の日々の様子をお伝えし、御家族様と共にその方を支えていきたいという安心感を持って頂ける様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	近隣を散策しながら挨拶を交わすなどして御近所の方との馴染みの関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士で楽しく過ごす時間を多く取り、利用者の話を聞いたり相談に乗ったり職員が利用者同士の関係が円滑になる様見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了された後でも、情報交換を行い、職員が機会を作って訪問に行く等継続的な付き合いが出来る様心掛けている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が利用者に声掛けや言葉、表情などから真意を汲み取り、それとなく確認するように努めている。本人にとってどのように暮らす事が最良なのか家族を交えて検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者の生活背景を礎に、御家族や地域の人の力を借りながら利用者の為のケアに活かしていく様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活、心理面の視点や出来ない事よりも出来る事に注目しその人全体の把握に努めている。生活リズムを理解し小さな動作から感じ取る様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	御本人に日常的な関わり合いの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルを用意し日常の様子や言葉などを記録し状態の変化もケア記録に記載し情報共有し職員が常に確認できるようにしている。介護記録の評価を実施する様心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	御本人、御家族の状況や要望を臨機応変に対応し、個別支援についても柔軟に対応するよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議に地域包括支援センターの方や民生委員の方など参加され周辺情報や支援に関する情報交換や協力関係を築いている。介護保険以外の情報も把握し、御家族様にお伝えしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	御本人や御家族の希望するかかりつけ医となっており、受診・通院は希望に応じて対応している。利用前からの医療機関と連携し関係を密に結んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護により日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行うようにしている。体調や些細な表情の変化を見逃さない様に早期発見に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報を医療機関に共有し、また御家族様とも回復状況等を情報交換しながら円滑に退院支援出来るように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化に伴う意識確認書を作成し、対応し出来る最大のケアについて説明を行っている。御本人や御家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携をとり安心して納得した最期を迎えられるように意思確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを作成し、周知徹底を行っている。行政関係者や消防の協力を得て、緊急手当てや蘇生術の研修を実施し、すべての職員が対応出来る様に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し年2回利用者と共に避難訓練を行い、地域の協力体制において運営推進会議で協力を呼びかけている。また消防署の協力のもと避難訓練避難経緯の確認消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	御本人様の気持ちを大切に考え、自己決定しやすい雰囲気作りに努めている。全職員、守秘義務について十分理解し、責任ある取扱いと管理を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に合わせ声を掛け、些細な事でも本人が決める場面を作っている。複数の選択肢を提案し、一人ひとりが自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れは持っているが、出来るだけ個別性のある支援を行い、時間を区切った過ごし方はしていない。一人一人のペースに合わせ、希望を訪ねたり相談しながら対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	それぞれの生活習慣に合わせ支援し、本人の意思により決定し、職員はその人らしさを保てるような支援を心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューは利用者と相談しながら決め、調理・盛り付け・片付け等も共に行い、楽しく出来る様に雰囲気作りも大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の体調と一日の摂取量を把握し、嗜好品や食べやすい物等で色々と工夫している。食事量も個々に合わせ確認好きな物や食べやすい物を出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は洗面所にて口腔ケアを行っている。職員は見守りや、支援にてケアを行い嚥下障害による肺炎の防止などに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の様子から察知し、身体機能に応じて歩行介助しトイレでの排泄を大切にしている。排泄チェック表を使用し尿意のない利用者にも時間を見計らって、誘導することによりトイレで排泄出来る様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄パターンを記録し十分な水分補給と繊維質の多い食材を提供し、腸の動きを良くする為に散歩をしたり、体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者のその日の希望を確認し、入浴していただき一人ひとりの気持ちや、習慣に合わせた支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日常の活動に配慮している一人ひとりの体調や表情・希望を考慮しながら天気の良い日には散歩、お天気の悪い日などは歌・ゲーム・体操などのレクリエーションを取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイル・処方箋などのファイルを職員全員が閲覧できる場所に管理し、利用者一人一人がどのような薬を服用しているか理解出来る様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の経験や知恵を発揮できる場面を作っている。自身で出来ることはして頂き、お願い出来る仕事を頼み感謝の言葉を必ず伝えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎月の行事を職員同士で話し合い決めて行っている。外食・お弁当を頼んだり、お誕生日会を行い楽しみ等を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	社会性の維持に繋げる為に少額を手元に持ってもらっている。利用者と一緒に買い物に出かけ、本人の欲しい物を選んでもらい自身で会計をしてもらっている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や友人等からの電話や本人が電話を掛けられるよう、支援を行っている。また、通話内容が漏れないよう設置場所を配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの掲示場に毎月季節感のある飾りつけをしている。また、お誕生日の利用者の名前などを提示し、みんなとお祝い出来る様努めている。安心感や居心地が良く過ごせる様努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	本人の居室も皆様と過ごされるフロア等乱雑にせず、清潔感を保てるように気を配っている。絵画・花等の装飾で居心地の良い空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	寝具やダンス・写真・思いでの品々を持ち込まれ、本人の居心地の良い空間である様配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の身体状況に合わせ、職員同士話し合い本人にとって何がいい状況で居られるかを考え、聞きながら自立支援に努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム 川崎幸の家

### 目標達成計画

作成日: 平成 26年 4月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出支援	外出する事で 地域の方との出合いを多くする。	散歩は天気の良い日には毎日行っているが、 朝・夕の2回位行う。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月